

平成26年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組（年度末点検）

※1：平成26年度2月自己点検・自己評価委員会及び3月学科長会議において検討し、以下の方向で取組・改善を進めることを確認した。（平成26年度第3回学校関係者評価委員会に報告済み）

※2：平成27年5月末時点での「現状」と「今後の進め方」について記述し、6月自己点検・自己評価委員会において確認した。

※3：平成27年度の実施状況について、項目毎に各担当者が10月28日付で中間点検し、11月自己点検・自己評価委員会において確認した。

※4：平成27年度の実施状況について、項目毎に各担当者が3月31日付で年度末点検した。

■重点目標

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27年度の進め方※2	27年度中間点検※3	27年度末点検 ※4
(1) 退学防止 ■事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫。 ■予防できたケースの情報共有を効果的に進める工夫。	継続	校長	<p>■平成26年度の退学者が27名(2月10日現在、見込みを含む)となり、年間退学率3.5%以下の目標は達成できなかった。</p> <p>しかし、2年連続の4%以下の退学率が示すとおり、退学防止の取組は着実に成果を上げている。今後は「退学を防ぐことができたかもしれない事例」について、指導の精度をさらに向上させるため、学内の研修会等で検討の機会を持つ。</p> <p>また、学科長会議において「退学の予防に向けた取り組み」を再確認するとともに、事例から学んで対策を立てる観点から「退学を回避できた事例の記録」等の検討や「退学届・学籍異動の記録」の見直しを行う。</p>	<p>■平成26年度の退学者（除籍を含む）は最終的に33名で、退学率4.5%となり、年間退学率3.5%以下の目標を達成できなかった。平成27年度については5月初めに、くすり調剤事務科の1年生が医療秘書科に転科したが、5月末時点で退学者はまだ出ていない。</p>	<p>■校長室が中心となり、「退学を回避できたかもしれないケース」や「退学届・学籍異動の記録」の見直しについて、学科長会議や教職員全体会等の場で検討する機会を持つ。</p>	<p>■平成27年度も年間退学率3.5%以下を目標としたが、10月末時点の退学者は23名で、退学率は2.8%となっている。10月まで保健室担当者が不在で、各クラス担任と学生相談コーナー担当者の連携はむしろ前年より頻繁に行われたが、退学防止が困難なケースが多かった。</p> <p>■「退学防止の事例記録」「退学届・学籍異動の記録」については、書式作成や書式の変更、教職員間での情報公開についての検討など、年度内に運用を始めるための準備がほぼ完了した。</p>	<p>■年間退学率3.5%以下を目標としたが、3月3日時点の退学者（手続き中を含む）は41名で、退学率が5.0%となり、目標を達成できなかった。10月まで保健室担当者が不在で、各クラス担任と学生相談コーナー担当者の連携はむしろ前年より頻繁に行われたが、退学防止が困難なケースが多かった。</p> <p>■「退学防止の事例記録」の運用を年明けの1月から開始した。また、「退学届・学籍異動の記録」についても、新しい書式での運用を1月から開始した。</p>
(2) 教員研修 ■「授業公開」のより効果的な進め方の更なる検討。	継続	点検委員会 教務委員会	<p>■「授業公開」の定着を図り、直接的な効果を期待する意味からも、当面は学科内実施と他学科、事務局の参観を継続する。来年度に向けては、実施管理の合理化と簡便化を図った上で、前期実施を目標に、公開期間を拡大して参観できる機会を増やす方向で実施案を検討する。</p> <p>参観レポートの公開教員へのフィードバックの仕組みは継続する。</p>	<p>■点検委員会：教務委員会と協議の上、平成27年度は重点目標に基づくインストラクションスキル研修の一環として実施することとした。</p> <p>5月自己点検委員会において具体的な進め方を確認、決定し、学科長及び関係者に伝達、周知した。</p>	<p>■実施は6月以降、試験期間を除く前期、後期の授業期間中の各学科が指定する1週間。各学科は、指定した実施期間中は原則としてすべての授業を公開し、学科教員は自由に参観する。</p> <p>参観者は、授業参観後、参観レポートを作成して公開者と学科長に提出する。</p>	<p>■前半で以下の学科の授業公開が終了している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くすり調剤事務科：7/6(月)～10(金)</li> <li>・介護福祉科：7/13(月)～17(金)</li> <li>・鍼灸医療科：10/5(月)～9(金)</li> </ul> <p>■学科長から提出された実施報告では、参観は全体で7科目、参観者は11名であり、位置付けを明確にし、公開期間を拡大することで参観の機会を増やしたが、参観者の増加に結びついていない。</p> <p>■来年度は教員研修の位置付けをさらに明確にして、教務委員会を中心に実施、運営する予定。</p>	<p>■後半で以下の学科の授業公開を終了した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療マナー科：11/24(火)～30(月)</li> <li>・医療秘書科：12/14(月)～12/17(木)</li> <li>・速記コンピュータ科：1/18(月)降雪休講で実施せず</li> </ul> <p>■学科長から提出された実施報告では、参観は全体で5科目、6名、前半と合わせても参観は全体で12科目、17名であり、昨年度の実績を大きく下回った。</p> <p>■教員研修としての位置付けを明確にした上での結果であることから、各学科における動機付けの再確認と実施方法の根本的な見直しが必要と考える。来年度の実施検討がスムーズに行えるよう教務委員会に引き継ぐ。</p>
■職業実践専門課程における	新規	教務委員会	<p>■東京都私学財団、全国専門学校教育研究会な</p>	<p>■教員の専攻分野における研修につ</p>	<p>■27年度も引き続き実施していく。</p>	<p>■教員の専攻分野における研修につ</p>	<p>■教員の専攻分野における研修につ</p>

<p>認定要件※を踏まえた、企業と連携した教員研修プログラムの具体的な計画の立案。 ※教員の専攻分野における知識、技術、技能に関する研修、授業及び学生に対する指導力などに関する研修の実施</p>		<p>どが主催する各種研修会を校内グループウェアで全教職員に配信し、おもに授業及び学生に対する指導力のスキルアップを図る。</p>	<p>いては、教員各人の受講状況を教務委員会が把握するよう書類を管理している。また、学生の休暇期間を利用した学生のメンタルヘルスに関する研修についても実施を検討している。</p>		<p>いては、受講報告書を管理し各人の受講状況を把握している。 また、学生のメンタルヘルスに関する研修は、2月～3月に実施することを企画検討している。</p>	<p>いては受講報告書により、全体の受講状況を把握している。 学生のメンタルヘルス研修についても毎年実施が定着している。</p>
	各学科	<p>■職業実践専門課程 平成27年度学科運営計画において、認定要件を満足する企業等と連携した教員研修の実施計画を立案する。また、教育課程編成委員会の協力を得て、教員の病院見学プログラムを検討する。</p>	<p>■医療秘書科：関連団体主催の研修に随時参加することを学科運営計画に規定して実施している。</p>	<p>■年度末を中心に必要な研修に追加して参加する予定である。 教育課程編成委員会を検討の場としていく。</p>	<p>■研修＝年度末に予定される関連団体主催の研修に随時参加する予定。 ・学生の病院見学＝1年病院見学会を9月に企画し、教育課程編成委員会委員の所属する医療機関を初め、7病院8設定で実施した（所要時間1病院あたり2～3時間）。それに全教員が引率することで医療界の現状、病院組織の流れ、業務の流れの現状を把握した。</p>	<p>■研修＝3団体の研修のうち2団体の研修に参加済み。3月10日に残る1団体に参加。</p>
			<p>■医療マネジメント科：日本医療秘書学会、日本診療情報管理学会等への参加をすることを学科運営計画に規定して実施している。</p>	<p>■教員の病院見学を聖母病院へ依頼する予定である。</p>	<p>■教員の病院見学について、具体的な方法・内容を決定した上で、今年度内に「聖母病院」にて実施する。</p>	<p>■3月11・17日に全教員が聖母病院の外来受付・入院受付・医師事務補助等の業務を見学し、医療界の現状、病院組織、業務の流れについて把握する。</p>
		<p>■その他の課程 平成27年度学科運営計画において、職業実践専門課程の認定要件を踏まえた、職能団体や業界団体、学会が主催する研修への参加計画を立案する。</p>	<p>■専攻科：日本医療秘書学会、日本診療情報管理学会等への参加することを学科運営計画に規定して実施している。</p>	<p>■教員の病院見学プログラムを実施予定である。</p>	<p>■医療マネジメント科の見学に参加する。</p>	<p>■日程調整後、3月17日に医療マネジメント科とで実施する。</p>
			<p>■くすり調剤事務科：常日頃から、ドラッグストア企業、調剤企業、関連協会などと、教員の専攻分野における研修などの内容、研修の可能性について情報交換している。</p>	<p>■具体的に立案は今後の課題である。</p>	<p>■現時点では、企業との情報交換にとどまっている。職業実践専門課程を申請することが決まり次第、具体的な内容について話し合いを持つ。</p>	<p>■平成28年度も申請しないので、具体的な活動はしていない。すでに企業、団体から協力の了解が得られているので、申請が決定次第、活動を開始できる態勢にある。</p>
			<p>■速記コンピュータ科：日本速記協会主催の研修への参加をすることを学科運営計画に規定して実施している。</p>	<p>■機会が得られれば業界団体主催の他の研修にも参加する。</p>	<p>■10月中に日本速記協会主催の研修会及び講演会に参加した。11月中に東京速記士会主催研修会に参加予定。</p>	<p>■東京速記士会主催研修会(11/22)に参加済である。</p>
			<p>■鍼灸医療科：教員個々の意識、取り組みに任せてはいるが、学科目標として、学会への参加を促している。</p>	<p>■引き続き、学科目標に掲げ、自己研鑽を積めるようなサポート体制を検討する。</p>	<p>■今のところ、専門分野への学会、勉強会等の参加は出来ていない。引き続き促す。</p>	<p>■7月上級救命講習会に参加し、教員2名が資格取得した。 3月NPO 法人全国鍼灸マッサージ協会解剖見学に参加。</p>
		<p>■介護福祉科：日本介護福祉士養成施設協会主催の研修に、年2回参加することを学科運営計画に規定して実施している。</p>	<p>■教員の施設研修を検討している。日本介護福祉士養成施設協会以外の研修への参加を検討する。</p>	<p>■10月日本介護士養成協会研修会へ参加。11月にも参加予定。 ・その他、業界団体主催の研修、施設見学実習を検討中。</p>	<p>■12月に実習施設見学、2月に居宅介護支援事業所主催のセミナー（在宅介護現場の見学実習）へ参加した。 ■2月に福祉用具事業者による福祉用具に関する授業を実施した。</p>	

■項目別 2 学校運営

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27年度の進め方※2	27年度中間点検※3	27年度末点検 ※4
(1) 運営方針 ■運営方針や重点目標の説明、周知後の浸透。 ■浸透度合いの点検・評価を適切に行って改善を進めること。	新規	校長	■年度の重点目標を定めた「学校運営方針」を、新年度開始時に開催する全教師会・科会・担任会において、校長から常勤教職員及び兼任講師に説明している。もちろん、周知するためには、折にふれて繰り返し示すことが大切であり、教職員全体会や教育研究誌など、あらゆる機会を活用し、繰り返し強調している。 浸透度合いについては、平成27年度の説明の後、どのような方法が有効なのかを確認、検討した上で点検を行いたい。	■「学校運営方針」を、新年度開始時に事業計画説明会や学科教員会、全教師会等において、校長から常勤教職員及び兼任講師に説明している。 周知するためには、折にふれて繰り返し示すことが大切であり、教職員全体会や教育研究誌など、あらゆる機会を活用し、繰り返し強調している。	■運営方針や重点目標の説明、周知後の浸透の度合いについては、教職員の目標面接等のプロセスにおいて、個別に確認していきたい。	■運営方針や重点目標は、新年度開始時の事業計画説明会や学科教員会、全教師会等において、校長から常勤教職員及び兼任講師に説明した。 ■浸透させるために、教職員全体会や教育研究誌など、あらゆる機会を活用している。 個別には、教職員との目標面接、面談などの際に確認している。	■運営方針や重点目標は、新年度開始時の事業計画説明会や学科教員会、全教師会等において、校長から常勤教職員及び兼任講師に説明した。 ■また、浸透させるために、教職員全体会や教職員との目標面接・面談等の際にも、折にふれて確認した。12月発行の教育研究誌には、今年度も校長が、関連するテーマについて論文を執筆した。

3 教育活動

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27年度の進め方※2	27年度中間点検※3	27年度最終点検※4
(1) 教育課程の体系的な編成、見直し ■教育課程編成委員会や本委員会の提言などを参考にした、職業実践教育の視点による企業・施設と連携したカリキュラム編成。 ■職業実践専門課程の要件に沿ったPDCAサイクルへの対応。	新規	校長	■医療事務の仕事の高度化に対応した医事系学科のコース編成とカリキュラム編成について検討するため、関連する学科・教科系と校長室による検討会を、27年度の早い時期に開催予定である。	■医療事務の仕事の高度化に沿った平成28年度医事系学科入学生のコース編成とカリキュラムを策定するため、医療事務系学科・医療事務教科系等の参加による検討会を発足させ、検討中である。	■8月末をめぐりに検討の結果を取りまとめ、次年度生のカリキュラム案等に反映させる。	■医事系教育高度化検討会で医療事務業務の高度化への対応を協議し、医療秘書科のコース編成・カリキュラムについての方針と実施計画、平成29年度からの新たな1年制の専攻科の設置が提案された。	■医事系教育高度化検討会で医療事務業務の高度化への対応を協議し、医療秘書科のコース編成・カリキュラムについての方針と実施計画、平成29年度からの新たな1年制の専攻科の設置が提案され、学科再編検討PTと校務運営会議で承認された。
		各学科	■職業実践専門課程 平成26年度の医療事務系教育課程編成委員会と本委員会での議論、提言を踏まえて、平成28年度のカリキュラムを検討、編成し、平成27年度の成果と共に両委員会へ報告する。	■医療秘書科：医事系業務の高度化を見据えたカリキュラム検討会を定期的に開催している。 ■医療マネジメント科：平成27年度のカリキュラムは医療事務系教育課程編成委員会及び本委員会での議論、提言を反映させた内容となっている。	■検討会を継続開催し、8～9月をめぐりにカリキュラムを編成する。	■検討会の検討結果を踏まえ28年度生カリキュラムカリキュラムにおいてコース内容再編の実施及び29年度専攻科開設に向け検討がされた。	■28年度カリキュラムのコース内容再編を実施し、29年度専攻科開設も決定した。
			■その他の課程 職業実践専門課程の認定要件を踏まえ、本委員会での議論、提言や外部関係者の要望を踏まえて、平成28年度のカリキュラムを検討、編成する。	■専攻科：医療事務系教育課程編成委員会及び本委員会での議論、提言を平成27年度のカリキュラムに反映している。(平成28年度に科目として「病理学」と「がん登録」の2教科目を設置する。)	■引き続き、医療事務系教育課程編成委員会及び本委員会での議論、提言を踏まえたカリキュラム編成を行う。	■平成28年度のカリキュラム案についても、医療事務系教育課程編成委員会及び本委員会での議論、提言を反映させ、2年次のコース別の内容を、より実情に合わせた。	■平成28年度のカリキュラムについても平成27年度と同様に、 ・診療情報管理士コースは診療情報管理専攻科に進学する為の授業を中心 ・医療事務スペシャリストコース(就職組)は、ドクターズクラーク、介護事務、調剤事務等を取り入れ、幅広い分野の専門知識を身につけて就活に有利になるものとしている。
				■くすり調剤事務科：すでに教育課程編成委員会の候補先の協力了解を得ているが、学科としていつ申請するか決定していない。	■「病理学」と「がん登録」の担当教員未定のため依頼継続中。	■申請が決定次第、開催に向けて準備を始める。	■依頼継続中ではあるが担当教員の確保は見込める状況である。
				■申請が決定次第、開催に向けて準備を始める。	■申請が決定次第、開催に向けて準備を始める。	■平成28年度の申請の予定がないので、活動はしていない。すでに候補先の了解をえているので、申請決定を待ってから、開催に向けて準備を始める。	

			<p>■速記コンピュータ科：業界、企業と連携、編成したカリキュラムを運用している。</p> <p>■鍼灸医療科：カリキュラムは学校養成施設認定規則に基づき編成している。講義要項は、より理解しやすい様に実技と講義をリンクさせるなど一部、内容の工夫を行っている。</p> <p>■介護福祉科：：カリキュラムは指定規則により編成している。国家試験対策に向け、過去問題を取り入れた授業内容に取り組んでいる。</p>	<p>■業界ニーズを踏まえカリキュラム見直しを行う。</p> <p>■国家試験対策や実践的授業を鑑みて講義要項の内容をさらに検討する。</p> <p>■国家試験義務化に向けてのカリキュラム編成を検討している。全教員が徹底して、国家試験に向けた授業を行う。</p>	<p>■6月から7月にかけて28年度カリキュラムを検討、編成した。職業実践専門課程に向けた動きは特でない。</p> <p>■模擬試験の内容を一部変更。国家試験対応授業のシラバスの再検討を行い実践している。</p> <p>・企業推薦制度入学者に向けて、カリキュラムの編成も今後、検討する必要がある。</p> <p>■職業実践専門課程、国家試験に向けてのカリキュラム編成を8月に行った。</p> <p>・国家試験問題を入れた授業内容にシ定期試験でも出題に入れるようにしている。</p>	<p>■平成28年度カリキュラムを検討、編成した。</p> <p>■1月国家試験模擬試験の参加状況が悪く、28年度のシラバスでは国家試験対策授業内に取り込み、評価の一部とする。</p> <p>■期末試験を従来通り60分の試験時間とし、30分のフィードバックや自習などを行い、国家試験科目の充実を図るため、後期より実施した。</p> <p>■国家試験の過去問題を授業や定期試験の中に入れていないが、全教員は徹底できていない。次年度の科会で、担当科目の過去問題を配付し、授業内容の見直しを図る。</p> <p>■教育課程編成委員会で国家試験に向けてのカリキュラムの変更についての説明を実施した。</p>	
	校長室	<p>■職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会の議論及び本委員会の報告からテーマを確認、明確化して事務局（校長室）から学科長に提供している。学科において教育内容の変更、追加やカリキュラム編成に役立て、実施状況を教育課程編成委員会及び本委員会に報告し、更に意見を聴取して改善するプロセスで編成を行っており、事務局（校長室）としてこれを支援する。</p> <p>■その他の課程においても、それぞれの学科の背景を踏まえ「教育課程編成委員会の議論」を「関係業界、企業等からの聴取した意見」に置き換えて、同様に進められるように、改めてプロセスを確認する。</p>	<p>■平成27年度の両委員会の開催準備を進めている。</p> <p>・学校関係者評価委員会は6月28日（日）開催に向けて報告、説明資料の準備中。</p> <p>・教育課程編成委員会は7月開催に向け日程調整中。</p>	<p>■6月の学校関係者評価委員会においては、平成26年度活動報告と課題改善の進捗報告、平成27年度重点目標の説明を行う予定。</p> <p>■7月の教育課程編成委員会においては平成26年度の両学科運営とカリキュラムの実施報告、平成27年の学科運営説明と28年度カリキュラムの編成について説明、意見聴取を行う予定。</p> <p>■委員会後はできるだけ早く記録を整理して課題や意見を確認し、必要な情報を関係する学科長に提供する。</p>	<p>■学校関係者評価委員会：</p> <p>・6/28第1回委員会において、26年度活動報告と課題改善の進捗報告、27年度重点目標の説明を行った。</p> <p>・10/6第1回議事録と27年度委員会報告書案を送付し、第2回において検討予定。</p> <p>■教育課程編成委員会：</p> <p>・9月学科長会議において、学科（分野）毎に委員会を設置するように細則を改正した。</p> <p>（医療事務分野）</p> <p>・7/13第1回委員会において26年度の報告、27年度の学科運営説明と28年度カリキュラムの編成について説明し、意見聴取した。</p> <p>・次回を1月開催で調整中。</p> <p>（福祉分野）</p> <p>・今年度より新に介護福祉科の職業実践教育に関する委員会を設けることとし12/16に第1回を開催することで準備を進めている。</p>	<p>■学校関係者評価委員会：</p> <p>・11/29第2回委員会において、27年度重点目標中間報告と26年度課題改善の進捗報告、平成27年度委員会報告案を審議、決定した。</p> <p>・12/25平成27年度委員会報告提出</p> <p>・3/19第3回委員会において、27年度重点目標報告、26年度課題改善の年度末報告を行った。</p> <p>■教育課程編成委員会：</p> <p>（医療事務分野）</p> <p>・2/22第2回委員会において27年度学科運営報告と28年度カリキュラムの説明</p> <p>（福祉分野）</p> <p>・12/16第1回委員会において学科概要、カリキュラム、27年度学科運営説明。</p> <p>・3/11第2回委員会において前回宿題28年度授業について明。</p> <p>■録音から記録を残し、テーマ確認をしていることから、情報提供に時間がかかった。</p>	
(2) キャリア教育の視点	新規	CSC各学科	<p>■CSCにおいては社会人としての素養強化や職場で求められる人材像を示すため、内定先からの情報を取り入れたプログラムに改編することを検討中である。</p> <p>また、教育課程編成委員会や本委員会からの提言は勿論のこと、職業現場において要求されている最新の人材の情報を幅広く収集し、キャリア教育に関するタイムリーな情報とTPC</p>	<p>■CSC：実習・内定先訪問時に、求められる人材像と必要なスキルを確認し、学生の状況をふまえて適宜見直しを行い、各学科長と検討の上反映させている。</p>	<p>■社会の変化に迅速に対応できるよう、実習・内定先・卒業生等より得た情報を各学科と共有し、WCSPに反映させる。</p>	<p>■6月～10月に実施された実習訪問時に、実習先へのヒアリングを行った。また、求人先への電話問い合わせ時にも人材像やスキルについてのヒアリングを常時行っている。その結果を精査し、主に、次年度WCSPに向けての検討・改編を行うが、今後実施される1年次WCSPにおいても、必</p>	<p>■2～3月に内定先を訪問し、採用担当者へのヒアリングを行う。ヒアリングした内容を次年度WCSPに加味するとともに、年度内に各学科との打ち合わせを実施する。</p> <p>■1年次WCSP内で業種・職種の理解を十分に理解し、職業選択ができるよう、ワークシートの改編を行った。</p>

などの工夫。			を融合したワセダキャリアサポートプログラム (WCSP) の適切な実施に向け、CSCを中心に各学科と協力して進め方を検討し、具体的な作業を行う。			要に応じて反映させる。今後も内定先への訪問等の際に、現場からの意見のヒアリングを継続する。	
			■医療秘書科：CSCと協力してWCSPを展開中である。	■CSCを中心にWCSPの検討を進める。	■例年の講座に加え、「医師事務作業補助者」の職種紹介特別講座を11月30日に実施予定。	■「医師事務作業補助者」の職種紹介特別講座を11月30日に実施した。	
			■医療マネジメント科：CSCと協力してWCSPを実施している。	■CSCを中心としたWCSPの検討、改編に協力する。	■引き続き、CSCを中心としたWCSPの検討、改編に協力する。また、前年度実施した診療情報管理士の仕事・必要性・位置づけについての講演に加え、医師事務作業補助者の職業紹介を実施する。	■WCSPの改編については3月中にCSCと検討する。診療情報管理士の仕事・必要性・位置づけについて、日本病院会・横堀由喜子氏による講演を11月10日に実施した。 ■また、医師事務作業補助者の職業紹介について、荻窪病院職員による講演を11月30日に実施し、それぞれの仕事に対する理解を深めた。	
			■専攻科：CSCと協力してWCSPを実施している。	■CSCを中心としたWCSPの検討、改編に協力する。	■現在の方式を継続中。	■現在の方式を継承している。	
			■くすり調剤事務科：常日頃から、ドラッグストア企業、調剤企業、関連協会などと、求められる人材について情報交換し、それを踏まえてCSCと教育内容と日程を毎年決定、実施している。	■現在の方式を継承する。	■現在の方式を継承している。	■今後も現在の方式を継承する。	
			■速記コンピュータ科：業界動向の観点から、CSCと協力してグループワークを取り入れたWCSPを運用している。	■社会動向、業界ニーズを捉えつつ、WCSPの実施を中心としてキャリア教育を進める。	■キャリアサポートプログラムの実施に当たり、内容や時期についてCSCと随時連携を図っている。	■CSCとの協働によりWCSPを実施した。	
			■鍼灸医療科：卒業生との交流イベントや1年次からの企業による就職説明会への参加、治療院見学を実施している。国家試験後の就職活動が主であり、CSCとの連携行っている。	■鍼灸に特化せず、見識を広める為、CSCと協力して他の医療分野での見学先を拡大する。	■4月に卒業生との交流イベント、8月に企業説明会を実施。引き続きCSCとの連携を取っていく。 ・11月にクリニック見学を実施予定。	■11月にクリニック見学を実施した。	
■介護福祉科：CSCと協力してWCSPを実施している。CSCと協働で、就職に向けて卒業生懇談会を実施している。	■CSCと連携し、キャリア教育を進めていく。	■5/22にCSCと協働で、卒業生懇談会を実施した。	■WCSPへの参加を促しているが、芳しくない。特に、訓練生の参加が悪いため、次年度は本科生向けと訓練生向け用にプログラム内容をCSCと協力し、検討していく。				
(3) 授業評価 ■現在の授業アンケートは、結果を教員それぞれが自分の担当する授業に役立てることを目的としていることから、授業改善に向けた考え方を教員が記述することなどが次の課題。	新規	点検委員会	■次回の定期改訂において、授業アンケートを踏まえた授業改善の考え方を教員が記述することについて検討する。来年度はそのために必要な他校実施例等の情報の収集を行う。	■まだ情報収集には着手していない。前期授業アンケートの集計終了後、夏休みをスタートと考えている。	■できるだけ多くの事例を収集して、その中からモデルとできる事例を数例選択し、できればヒアリングも行って点検委員会での検討資料を作成する。	■まだ情報収集には着手していない。年度末までに他校の実施例を収集して、28年度前期中に原案の検討を開始できるように準備を進める。	■2月から情報収集に着手した。28年度前期末まで原案の検討を開始できるように、他校の実施例を収集して準備を進める。
(4) 成績評価・単位認定 ■各種イベントや競技会、学会など学外での発表の機会を増やす、また学内で発表など	新規	各学科	■各学科において、学内における発表の機会について現状の確認を行うとともに、新たな機会について検討する。	■医療秘書科：(学内) 授業と連携し発表の機会を設けている。	■学内での発表の場の整備・充実を中心に進める。	■(学内) 27・28年度生カリキュラムにおいて、発表の機会を伴う選択科目を共通科目として配置替えを実施した。	■28年度2年生より実施する。

<p>の経験を積んでから学外発表を行うなどの仕掛けの検討。</p>				<p>■医療マネジメント科：一部の授業において、発表の機会を設けている。</p>	<p>■教員と、発表の機会を設けた内容の授業を多くする事について、検討する。</p>	<p>■教員と、発表の機会を設けた内容の授業を多くする事について検討した結果、「病院受付実務」、「医療サービスと品質マネジメント」において実施した。</p>	<p>■「病院受付実務」、「医療サービスと品質マネジメント」、「パソコン演習」において、学生の発表の機会を設けた内容の授業を実施し、受講した学生全員が全体の前で発表する経験をした。 ■日本医療秘書学会学術大会において、学生3名が演題「Accessで在宅復帰率をチェックする」を発表した。</p>
				<p>■専攻科：発表形式の授業を後期に実施予定である。</p>	<p>■発表形式の授業を定着させ教育成果につなげる。</p>	<p>■医療マネジメント科の2年後期の授業（医療サービスと品質マネジメント）で実施中である。</p>	<p>■医療マネジメント科の2年後期の授業（医療サービスと品質マネジメント）で実施した。</p>
				<p>■くすり調剤事務科：毎年、日本ドラッグストアショウで応募している「理想の登録販売者」について、くすり調剤事務科1年生の投稿を実施している。</p>	<p>■毎年1名の入賞があるが、全員参加と複数入賞を目標に、今後さらに力を入れて指導していく。</p>	<p>■登録販売者についての現時点での問題点や希望事項などについて学生と一緒に一覧表を作成し、その中からそれぞれ異なるテーマを選び、しっかりと内容で原稿を作成し、投稿する。複数入賞を目標に、12月末までに1年生全員が作成、1月投稿する。</p>	<p>■1年生全員が1月に投稿した。結果は、平成28年3月19日のドラッグショーにて発表予定</p>
				<p>■速記コンテスト科：日本速記協会主催の競技会への参加、学園祭における速記紹介イベントを推進している。</p>	<p>■従来どおり速記競技会・イベントに取り組む。</p>	<p>■10/17に東京速記士会主催速記競技会への参加、高速度速記競技会見学の機会を持った。</p>	<p>■学園祭における速記紹介、速記競技会及び高速度速記競技会への取り組みを推進した。</p>
				<p>■鍼灸医療科：1年次の「鍼灸ゼミⅠ」3年次の「臨床実習Ⅱ」において学科内での発表を取り入れている。</p>	<p>■スポーツ競技会のボランティア参加など鍼灸師会と交流を図る。</p>	<p>■「鍼灸ゼミⅠ」において9月に授業内発表会を行った。後期に「臨床実習Ⅱ」において症例報告会を行う。 ・ボランティアについては新宿鍼灸師会のボランティア活動研修に教員自ら参加し今後の検討を行う。</p>	<p>■12月に「臨床実習Ⅱ」の症例報告会を行った。今回は他学科への症例報告会への参観を促した。 28年度は、早期に他学科へのインフォメーションを行う。</p>
				<p>■介護福祉科：卒業研究発表会、実習報告会や介護福祉ゼミの授業などで、発表の機会を設けている。</p>	<p>■卒業研究発表会では、対話形式を導入し、より事例研究の向上をめざす。</p>	<p>■1、2年生の実習後の報告会を7月と10月に実施した。卒業研究発表会は、各ブースごとに分かれた対話形式での発表を予定している。</p>	<p>■卒業研究発表会では、2教室に分かれ2年生の発表に1年生が質問をした。1年生の質問も的確で、2年生も質問に返答ができていた。 ■1年生2年生、相互に実りある発表会ができた。</p>
<p>(5) 資格試験 ■資格・検定試験などに対する認識や知識のギャップの有無の確認に関しては、卒業年次生に対する学生生活に関する調査や内定届の工夫をはじめ、様々な方法による平成26年度からの調査が課題。</p>	<p>継続</p>	<p>教務委員会</p>	<p>■現行の「卒業レポート」は自由記述形式となっており、インターン中に役立っている授業科目について記述する学生も若干名いるが、数も少なく分析するには至っていない。 平成27年度の卒業年次生のうち、特にインターン生に対する「学校生活に関する調査」に、資格・検定試験がインターン中の実務にどのように生かされているかを問う項目を追加することを検討している。 また、資格が実務に生かされているかどうかは、就労中の卒業生への調査が必要であると考えられるため、今後学生へ配付するWebメール等の利用も検討していく。</p>	<p>■Webメールの配布が進行しており、平成26年卒業生と本年度インターンに出る学生への調査を実施する準備を進めている。</p>	<p>■Webメールを活用した卒業生と本年度インターン生への調査とともに、インターン生に対する「学校生活に関する調査」の項目についても、点検委員会とともに検討を進めていく。</p>	<p>■Webメールを活用した調査、インターン生に対する「学校生活に関する調査」の項目の検討は、いずれもまだ具体的に着手していない。年度内に実施できるよう点検委員会とともに準備を進める。</p>	<p>■インターン生に対する「学校生活に関する調査」とともに「資格取得に関する調査」を実施し、結果を分析した。</p>
<p>(8) 連携 ■授業は勿論、学生の日常指導に関する常勤教員と兼任講</p>	<p>継続</p>	<p>校長 各学科</p>	<p>■各学科における現状を再確認の上、個人情報保護に配慮しつつ、常勤教員から兼任講師に、日頃から学生の指導に関連する情報を提供す</p>	<p>■校長：新年度開始時の全教師会で、校長から常勤教職員及び兼任講師に学生指導における連携と情報共有の</p>	<p>■授業進捗表・報告表といった情報共有のツールや情報共有促進の方法について、校長室を中心に検討し、提案</p>	<p>■授業進捗表・報告表といった情報共有のツールについては、まだ具体的な検討はされていないが、校長室を中心</p>	<p>■授業進捗表・報告表といった情報共有のツールについては、一部の学科（介護福祉科）で試行されたが、全学</p>

<p>師間の協力を今まで以上に進められるように、様々な機会を捉え、常勤教員から積極的に働きかける努力を継続することが引き続きの課題。</p>			<p>ることを心がける。また、兼任講師に学生を共に見守ってもらえるような仕掛け（情報共有を推進するためのツールなど）も検討する。</p>	<p>必要性について改めて説明し、協力を呼びかけた。</p>	<p>する。</p>	<p>に検討することになっている。ただ、常勤教員と兼任講師の学生指導における連携と情報共有は、以前より前進していると感じている。</p>	<p>的な検討は、まだなされておらず、継続的な課題である。ただ、常勤教員と兼任講師の学生指導における連携と情報共有は、以前より前進していると感じている。</p>
			<p>■医療秘書科：個人情報保護に配慮しつつ、兼任講師への情報提供を心掛けている。</p>	<p>■引き続き、個人情報保護に配慮し情報提供を行っていく。</p>	<p>■個人情報保護に配慮し情報交換を適宜行っている。</p>	<p>■個人情報保護に配慮し情報交換を適宜行った。</p>	
			<p>■医療マネジメント科：各教員間において、情報交換は適宜実施しており、情報共有を推進している。</p>	<p>■引き続き、情報交換を実施する。</p>	<p>■学科ミーティングを月1回定期的に実施している。また、兼任教員とは、打合せ・情報交換は適宜実施しており、授業運営・学生の動向についての情報共有を推進している。</p>	<p>■学科ミーティングを月1回以上定期的に実施し、情報交換・共有、意見交換を行なっている。 ■また、兼任教員とは、打合せ・情報交換は適宜実施しており、授業運営・検定対策・学生の動向についての情報共有、意見交換を推進し、成果を得ている。</p>	
			<p>■専攻科：兼任講師に、学生の指導に関連する情報を提供している。兼任講師共に学生情報を共有し兼任講師協力のもとで問題解決に当たっている。</p>	<p>■今後も連携活動を継続する。</p>	<p>■適宜、兼任講師との情報交換をおこなっている。</p>	<p>■適宜、兼任講師との情報交換をおこなっている。（月に2回程度）</p>	
			<p>■くすり調剤事務科：年2回の科会開催と、毎週講師室での連絡、情報交換を実施しており、リアルタイムに相互が情報を共有している。</p>	<p>■現在の方法で問題がないので、継続していく。</p>	<p>■現在の方法で問題がないので、継続している。</p>	<p>■現在の方法で問題がないので、継続している。</p>	
			<p>■速記コンピュータ科：兼任教員には随時働きかけながら情報共有に努めている。また、学生状況に問題が生じた場合、対処法等に関して協力を仰いでいる。</p>	<p>■兼任教員との連携関係を継続する。</p>	<p>■兼任教員とは主に学生の出欠状況について情報共有を図っている。</p>	<p>■兼任教員の協力を得て情報の共有化に努めた。</p>	
			<p>■鍼灸医療科：学科のメーリングリストにて、学生の模擬試験の結果や授業内試験での結果を共有している。また、成績不良者や、出欠についても、適宜ヒアリングを行い、学科として情報の共有を行っている。</p>	<p>■引き続き情報の共有を行う。</p>	<p>■メーリングリストや日々の授業日で担任を中心に兼任教員との情報共有を行っている。</p>	<p>■メーリングリストを有効活用し、情報共有を図っている。引き続き、アドレスの確認を行う。</p>	
			<p>■介護福祉科：兼任講師には適宜、学生情報の共有を行っている。授業の共有と向上のため、各科目担当教員、兼任講師間で、授業進度表の記入を実施している。</p>	<p>■国家試験に向けて更に、強化していく。</p>	<p>■4月から授業進度表の記入を実施し、授業の共有を行っている。</p>	<p>■進度表を確認し、他の科目との共有を図ったが、専任教員間でしか活かされていない。兼任講師との連携を図れるよう次年度科会で意義を再度伝えていく。</p>	

4 学修支援

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27年度の進め方※2	27年度中間点検※3	27年度末点検 ※4
<p>■就職後の卒業生の就業動向などの情報把握は、アンケートの定期的実施や校友会報告送付に併せた動向把握などをwebメールを連絡ツールと</p>	<p>継続</p>	<p>事務局長 学務課</p>	<p>■Webメールのアドレスについては、2月上旬に教職員への配付を行い、2月下旬には卒業学年の学生に配付する予定である。 また、新入生・進級生については、4月下旬に配付予定である。</p>	<p>■事務局長：配付状況について ・教職員配付は2月中旬 ・3月卒業生は卒業時 ・在学生のうち卒業学年は5月下旬、新入・進級生は6月中旬</p>	<p>■連絡ツールとして浸透するよう、卒業生へのアンケート調査や在校生への連絡ツールとして活用する。</p>	<p>■平成27年度より、卒業生に対しては卒業生支援講座の案内の配信。在校生に対しては、クラス担任からの連絡やCSCからの求人案内・連絡の伝達に活用している。</p>	<p>■卒業生に対しては卒業生支援講座の案内。在校生に対しては自然災害等の際の緊急連絡や、CSCからの求人情報・連絡等に引き続き活用し、徐々に浸透が図れている。</p>

して活用ができるように準備を進めている。			■学務課：教務委員会と連携して進めている。	■教務委員会と連携して進めている。	■教職員（2月）、卒業生（3月）、在校生（6月～）にメールアドレスを配付した。	■教職員及び、平成27年3月卒業生並びに、平成28年度在校生に対してGメールアドレスを付与した。
----------------------	--	--	-----------------------	-------------------	---	--

5 学生支援

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27年度の進め方※2	27年度中間点検※3	27年度末点検 ※4
1) 就職支援 ■就職支援の内容は時代や社会の変化への迅速な対応が必要であり、プログラムを常に見直すこと。	新規	CSC	■実習・内定先より各業界の最新情報を収集し、WCSPへ反映させるよう検討している。	■実習・内定先訪問時に必要とされるスキル・望ましい人材像を調査し、WCSPの改編を行っている。	■時代や社会の変化を読み取り、迅速にWCSPに反映できるよう、各学科と協力し見直しを行う。	■医事系学科：卒業学年生に対しては、9月の最終WCSP時に、グループ病院の求人縮小や新就職協定による求人発生の早期化に伴い変化した就職環境を、タイムリーに伝えた。 ・次年度就活生に対しては、10月の初回WCSP時に就職状況の現状を伝え、早期からの対策を促した。 ・また、就活への道筋となるように業界研究を中心にWCSPの改編を行った。 ■くすり調剤事務科：売り手市場の状況を受けて、1年次後期のWCSPを自己分析に比重をおく内容に改編した。 ■速記コンピュータ科：就職に対する具体的意欲を高め、検定試験受験へのモチベーションの向上につなげるため、内定者懇談会の実施時期を1ヵ月早めた。 ■介護福祉科：就職意欲向上を図るため、1年次のWCSPを2クラス合同で実施する。 ■鍼灸医療科：前年度までと同様に、学科と協力し個々に合わせた学生支援を行うため、今年度の改編は行わない。	■医事系学科：次年度就活生に対し、WCSPやキャリアデザイン時に就職状況について伝えることで就職活動へ意識が向くようにした。更に早期に就活がスタート出来るように準備を促した。 ■くすり調剤事務科：企業の採用活動時期の変更を鑑みて、3月から活動スタートができるようWCSPを通して準備をすすめた。一方で、校内にて選考を行う企業に対して学生が応募に踏み切りやすい4月以降に選考するように働きかけた。 ■速記コンピュータ科：内定者懇談会の時期を早めた結果、検定試験へのモチベーションアップにつながった。高いモチベーションを自己分析や履歴書作成に繋げ、就職活動に前向きに取り組むように促した。 ■介護福祉科：就職意欲向上を図るため、1年次WCSPを2クラス合同で実施した。また、1・2年生全体に学内説明会を実施し、更に就職意欲を高めた。 ■鍼灸医療科：国家試験受験後、学科と協力し、個々の学生の状況に合わせて支援する。 ■看護科：履歴書作成見本の配布や応募書類の添削等を行った。また、CSCの利用方法を告知し、利用を促した。
		各学科	■CSCと協力して、学科の特性に合わせた見直しを行う。 ■医療秘書科：キャリアデザイン・就職指導の中でも学科特有の情報は提供している。 ■医療マネジメント科：進学組、就職組それぞれに適合させたプログラムを実施している。	■CSCと連携し検討を加えていく。 ■引き続き、見直し、実施する。	■（1年生9月）27年度後期プログラムにおける各講座導入時期をCSCと連携し決定した。 ■27年度については、進学組、就職組それぞれについてさらに適合させる為、プログラムを完全に分離して実施している。	■27年度の実績を踏まえ、28年度プログラム内容について年度内にCSCとの打ち合わせの場を持つ。 ■進学組については、後期に面接対策を除くプログラムの大半を実施し、診療情報管理専攻科への進学後に実施する面接対策につなげるという、実際の就活スケジュールに対応する形態とした。 ■就職組については、実際の就活スケジュールに合わせ、後期は既に終了している。	



			<p>■専攻科：CSCと協力して、学科の特性に合わせた見直しを行う予定。</p> <p>■くすり調剤事務科：CSCと情報交換しながら、企業に依頼して、学校での特別講義、会社説明会を、早期から、頻繁に実施しており、生徒の就職活動への取り組みの熟成を図っている。</p> <p>■速記コンピュータ科：毎年、学科の特性に合わせた見直しを行っている。</p> <p>■鍼灸医療科：国家試験後から卒業後の就職活動が主であり、特に卒業生へのCSCと協同して支援、業界情報の提供を行っている。</p> <p>■介護福祉科：早期からの就職活動傾向から、卒業生懇談会の時期を1か月早め実施した。</p>	<p>■CSCの働きかけを待って着手したい。</p> <p>■希望者の100%の就職率を維持していく。</p> <p>■業界動向を踏まえて今後も見直しを行う。</p> <p>■引き続き、卒業生や業界のヒアリングをCSCと協同して行う。</p> <p>■学生が、緊張感を持ち就職活動に取り組めるよう、学科からも積極的に提案し、CSCと協働していく。</p>	<p>■現時点ではまだ就職支援のプログラム変更は行っていない。</p> <p>■現時点で、90%が内定、100%の就職率を目指している。</p> <p>■内定者懇談会実施時期の前倒しなど、前期中に後期プログラムの見直しを行った。</p> <p>■学生には業界の動向について、情報提供を行っている。また、個人面談で卒業後の進路について把握している。卒業生の就職状況についてCSCと協同して行う。</p> <p>■5/22に卒業生懇談会を実施し、早期からの就職への意識付けを行った。見学会や事業所等の情報提供を行っている。また、必要に応じて個人面談を行っている。</p>	<p>■現行の就職支援のプログラムを実施している。</p> <p>■すでに100%の就職内定が得られた。</p> <p>■CSCとの協働により随時見直しを行った。</p> <p>■国家試験終了後、3年生への卒業後進路について面談を行う。</p> <p>■卒業生の進路については、一部把握している。</p> <p>■CSCと協働し、見学会・体験等への参加を促し、就職に繋がった学生もいる。1年生からも、在宅介護体験に参加した学生もいる。</p> <p>■進路が決定していない学生には、1、2月に個別面談を実施した。</p>	
<p>(7) 保護者との連携</p> <p>■ミスマッチへの対応をはじめ、学習の再動機付けや就職活動支援などにおいては、家庭の理解と協力の必要性が年々高まっている。</p> <p>■早い時期に保護者への説明の機会を設けることや成績、出欠の報告を定期的に行うこと、また学園祭などを利用した担任との相談の機会、ネットを用いた保護者への情報発信など、一歩前に出た連携の検討。</p>	新規	<p>校長 事務局長 CSC 各学科</p>	<p>■鍼灸医療科の先行事例を参考に、保護者との連携の仕方を具体的に検討する。個人情報保護に配慮しつつ、状況の許す学科においては、保護者会の開催等により保護者との接点を増やすことを試行したい。</p> <p>また、学生の成績等の個人情報を保護者へ報告することは、個人情報保護に関する準備を整えた上で、順次検討を進める。</p> <p>個人情報に関わらない、就職活動の進め方や学校での約束事、実習等については、説明の時期・方法を考慮し、情報発信を行うことを検討したい。</p>	<p>■校長：先行事例を参考に、保護者への情報発信の方法、保護者との連携の仕方を、各学科で具体的に検討している。</p> <p>■事務局長：保護者会開催や成績報告については、具体化への検討は未着手である。</p> <p>就職活動や実習等の学校についての情報発信は、入学希望者、在学学生、保護者に向けて、その概要を案内書やホームページに掲載している。</p> <p>■CSC：学科の協力を得ながら必要に応じて個人情報に配慮しつつ、保護者と連絡を取っている。</p> <p>■医療秘書科：出席状況が不良な学生については、随時保護者連絡を行っている。</p> <p>■医療マネジメント科：保護者への説明会等は行っていない。</p>	<p>■校状況の許す学科においては、保護者との具体的な接点としての保護者会等の開催を試行する。</p> <p>■保護者会開催や成績報告については、実施の可否を決定し、実施の場合は、個人情報の取り扱いを含めた手順等の検討を行う。</p> <p>個人情報等に関わらない情報発信については、各媒体の制作・更新時に充実を図っていく。</p> <p>■就職活動の進め方や学内ルール等については、各学科と検討の上、情報発信を検討する。</p> <p>■情報発信について学校全体の取り組みとして検討を加えていく。</p> <p>■基本的な方針や内容を踏まえて検討する。</p>	<p>■欠席が多い学生等、個別のケースについては保護者との連携が積極的になされているが、保護者会などの組織的な取り組みは一部の学科にとどまっている。</p> <p>■保護者会開催や成績報告については、年度内に学内のヒアリングを行い、実施の可否を検討する。</p> <p>学校情報の発信については、年度初めに入学案内書やホームページをリニューアルし、情報公開の内容更新を含め充実を図った。</p> <p>■今後の課題として後期終了までに各学科と検討を行う。</p> <p>■具体的な検討は可否を含め学校全体の取り組みとして今年度内に検討される予定である。常勤教員と兼任講師との連携も適宜行っている。</p> <p>■出席状況が不良な学生等については、随時、保護者連絡を行って対処している。保護者への説明会等は、年度当初のオリエン時での実施等の構想はあるが、基本的な方針・内容・時期・方法について、慎重に進める。</p>	<p>■欠席が多い学生等、個別のケースについては保護者との連携が積極的になされているが、保護者会などの組織的な取り組みは一部の学科にとどまっており、継続的な検討課題となっている。</p> <p>■保護者会開催や成績報告については、実施までの準備や内容の具体案が提案に至らず、学内のヒアリング、実施の可否も検討していない。</p> <p>■学校情報については、ホームページから在校生による最新情報の発信も行われ、より充実した内容となった。</p> <p>■保護者との連携について、各学科との打ち合わせを年度内に実施する。</p> <p>■出席状況が不良な学生の保護者に対する報告方法として、電話報告以外の方法を年度内に検討する。</p> <p>■出席状況が不良な学生等については、随時、保護者連絡を行って対処している。</p> <p>■保護者への説明会等は、年度当初のオリエン時での実施等の構想はあるが、基本的な方針・内容・時期・方法については多くの検討課題があると思われるので、28年度以降慎重に検討</p>

				<p>■専攻科：保護者への説明会等は行っていない。</p> <p>■くすり調剤事務科：問題が発生した場合のみ、保護者に連絡して、三者面談を実施している。</p> <p>■速記コンピュータ科：欠席状況等により保護者に連絡をとりながら連携を図っている。</p> <p>■鍼灸医療科：国家試験に対する保護者の協力と理解を得る為、入学時オリエンテーションでは保護者の参加を促している。また、企業推薦制度の学生においては出欠状況は毎月企業への報告と、成績については学生の保護者あてに送付している。</p> <p>■介護福祉科：保護者への説明会等は行っていない。</p>	<p>■今後の状況を考慮し、対応に当たりたい。</p> <p>■学校側からの基本的な方針や内容が示されたのちに、学科として検討する。</p> <p>■成績等の情報を保護者へ報告する方法、タイミングに関しては、学生の個人的事情や意向を踏まえ慎重に検討したい。</p> <p>■引き続き実施する。</p> <p>■基本的な方針や内容を踏まえて検討する。</p>	<p>■学校全体の取り組み・基本方針に合わせて来年度のオリエンテーション時での実施を検討したい。</p> <p>■学校としての基本的な方針や内容が決まっていないので、それまでは学科としては、問題が発生した場合のみ、保護者に連絡、三者面談を実施していく。いまのところ、問題が発生していないので、保護者に連絡した案件はない。</p> <p>■7月上旬、9月上旬に退学希望の学生保護者と連絡を取り合ったが、やむなく退学に至った。 保護者との連携方法について年末をめどに検討する。</p> <p>■入学時オリエンテーションを実施。前期成績通知についても送付済み。また、「学生生活ガイド」の評価方法について、保護者、学生への明確な対応を行えるように細則を作成した。</p> <p>■保護者への説明会等は実施していないが、対象となる学生には欠席状況等を保護者に連絡を取っている。解決困難な場合は、面談を行っていく。</p>	<p>する。</p> <p>■オリエンテーション時の説明会は実施困難であり、問題が発生した場合のみ、保護者に連絡、三者面談を実施していくことで対応している。</p> <p>■学校としての基本的な方針や内容が決まり次第、学科として取り組む。いまのところ、問題が発生していないので、保護者に連絡した案件はない。</p> <p>■当面は原則として、欠席数が授業時間数の20%を超えた局面において、保護者への迅速な連絡、対応を行う。</p> <p>■毎月の出欠チェックにより、早期対応ができ、出席状況が不良な学生はいない。 ■企業推薦制度の学生においては、学科スケジュールを早期に知らせ、参加出来るよう企業側と連携を取りながら行っている。 ■28年度のオリエンテーションについては、1日に短縮した。</p> <p>■保護者への説明会は行っていない。欠席が多く、単位不足者には三者面談を実施した。</p>
<p>(8) 卒業生支援</p> <p>■ネットを利用した各種の手続きや情報提供の効果的な実施に向け、学務課と校友会事務局が協力して検討すること。</p>	継続	学務課	<p>■Webメールの導入等により、卒業生を支援するための情報提供のインフラは整備できた。今後は、学校から有益な情報が提供されているという認知をしてもらうために、提供する情報の質の向上、量の増大が課題である。</p>	<p>■ホームページを利用し、卒業生の証明書発行申請用フォームを掲載するための準備を進めている。各種情報提供については、在校生に個人用メールアドレスが配付された。</p>	<p>■平成27年10月より、卒業生に向けた証明書申請用フォームをホームページに掲載できるよう課内での打ち合わせを行っている。 ・情報提供については、平成28年4月から、平成26年度以降の卒業生・修了生に対して卒業生支援講座の実施案内などの配信ができるよう校友会事務局と10月以降に協議し準備を進めていく。</p>	<p>■6月より学務課でホームページを利用した証明書申請用フォームについて検討を行っている。様式の検討後学科長会に報告を行い、平成28年4月からの運用開始に向けて進めている。 ・11月中に課内の最終調整を行い、2月よりホームページの制作を行う。</p>	<p>■学務課での検討を12月の学科長会に提案し了承を得た。1月にホームページ制作会社に、申請フォーム等の制作を依頼し、3月中旬にアップ、4月1日から新たな運用を開始する。 ■校友会報の発行案内を平成28年度に実施する予定である。</p>

6 教育環境

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27年度の進め方※2	27年度中間点検※3	27年度末点検 ※4
<p>(2) 学外実習、インターンシップ</p> <p>■実習先は、指定の要件を満た</p>	継続	学外実習のある学科	<p>■医療秘書科：平成26年度において7件の新規開拓の実績を残した。</p>	<p>■学生の実習先希望を最優先に確保している。</p>	<p>■27年度生についても実習オリエンテーションにおいて実習先選びの方法を周知する。</p>	<p>■27年度においても学生の実習先希望を最優先に9件の新規開拓を確保した。(実習先総件数105)</p>	<p>■28年度においても学生の実習先希望を最優先に新規開拓を確保する。</p>

し、学科の教育目標を達成するために、学習の場として相応しい所に、学生の希望、通勤などを考慮した上で依頼している。学生の地域性、希望、選択の多様化、また要件の緩和もあり、多種多様な実習先の新規開拓が引き続きの課題。			■医療マネジメント科：平成 27 年度に必要な実習先は平成 26 年度の新規開拓により確保できている。	■平成 27 年度については、6～7 件の新規開拓が出来る予定である。	■引き続き、実施する。	■平成 27 年度については、既存の実習先に加え、9 件の新規開拓が出来、必要な実習先は確保できた。	■27 年度については、既存の実習先に加え、10 件の新規開拓が出来、必要な実習先は確保できた。(実習先総数 106 件)
			■診療情報管理専攻科：平成 27 年度に診療情報管理実習先を 21 件、医師事務作業実習先を 17 件確保している。	■必要な実習先は確保されている。	■今後の学生の在籍者推移を見守り、必要であれば新規開拓をさらに行う。	■新規で医師事務作業 4 件、診療情報管理 6 件の実習先の確保ができた。	■新規で医師事務作業 5 件、診療情報管理 6 件の実習先の確保ができた。
			■くすり調剤事務科：薬事法省令改正により平成 27 年度から実務経験が廃止されたため、課題はなくなった。	■実習先についての課題はなくなった。調剤事務内定先でインターンシップが実施されている。	■調剤事務内定先に訪問し、人材育成について 2 年間の教育の重要性を説明して、インターンシップの現状の改善に努力する。	■調剤事務内定先に訪問し、人材育成について 2 年間の教育の重要性を説明して、インターンシップの現状の改善に努力している。その結果、今の時点で案件がない。	■27 年度は、インターンシップの学生はゼロであった。来年度もゼロを目指して、企業側の理解を得ていく。
			■介護福祉科：社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則に基づき学外実習を実施している。隔年で実習指導者懇談会を実施し、実習施設と連絡調整を行っている。平成 25 年末に新規開拓した施設で平成 26 年度は実習実績がある。	■新規に 2 施設（複合型施設・老人保健施設）を登録した。	■多種多様な施設で学べるよう実習施設の開拓をしていく。	■6/5 に実習指導者懇談会を実施し、実習施設との連携を図った。 ・新規 2 施設での実習を開始した。	■平成 28 年度新規実習施設として、4 事業所（特養・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護・訪問介護）が確保できた。
(4) 教育活動中の安全対策 ■通常の業務体制で対応はできているが、授業中の事故等に関する共通のマニュアルの作成。	新規	校長室	■教育活動中の安全対策は、専門学校評価基準にも規定されていることから、授業の実態等を把握したうえで、鍼灸医療科の「鍼灸実技授業における過誤防止マニュアル」を参考に他校の情報も収集して、学科長会議において共通のマニュアルを検討する。	■まだ着手していない。まずは他校の事例収集から開始する。夏休み明けの原案作成を目標にしている。	■平成 27 年 12 月までに学科長会議において検討終了することを目標にしている。	■公立学校等における学校安全管理マニュアルを参考に、できるだけシンプルな形式で作成することにし、12 月学科長会議への提案が目標である。	■未着手、公立学校等における学校安全管理マニュアルを参考に、できるだけシンプルな形式で作成することにし、4 月学科長会議への提案を目標に作業を進める。
■学内感染の予防の観点から、インフルエンザなどの予防接種の PR 方法を改善しているが、提携先の病院と協力して行うことなどを引き続き検討。	継続	学務課	■インフルエンザ罹患情報を、保健室からの発信により定期的に提供するとともに、予防接種の促進を図るポスター掲示も継続していく。	■保健室だよりに予防接種の奨励と近隣病院の予防接種実施状況について案内している。また、罹患状況について定期的にメールで配信している。	■前年度と同様の案内を保健便り 9 月号に掲載する。また、学内で希望者に対して予防接種が実施できるか、8 月末までに結論を出す。	■保健室便り 11 月号にて、近隣病院の料金情報などを告知するよう進めている。 ・看護科学生及び教員については、10 月末に外部業者による集団接種を実施した。 ・看護科以外の在学生の希望者に対する接種については、事前の人数把握、クラス授業時間への配慮が難しいことがわかり、今回は見送ることとした。次年度は校医の病院との連携を検討する。	■校医の病院に予防接種料金の割引を打診したが有効な回答は得られなかった。平成 28 年度については、接種料金、日程等を鑑み、看護科のみの集団接種を行い、その他の在校生に対しては、予防接種の情報提供等を行うことを保健計画に定めた。

## 7 学生の募集と受入れ

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27 年度の進め方※2	27 年度中間点検※3	27 年度末点検 ※4
3) 入学選考 ■入学者の選考にあたっては、「入学試験実施要領」に従って審査、運営しており、適正かつ公平、公正に実施、管理している。入学選考に関する情報を一元化して管理することの検討。	新規	事務局長 学務課	■学事システムの入替えにともない、一元管理が可能かどうか、予算面も含め検討を行っている。	■事務局長：新学事システムに関しては、業務項目に優先順位をつけ、詳細な見積りを依頼中。	■業務項目と予算の条件が合えば、導入に向けての具体的な検討を行う。	■10 月末時点における学事システム検討状況では、予算の関係で、選考情報を含めた一元管理は困難な状況である。	■新学事システムにおいては、選考情報まで含めた一元管理は、導入時点では行わないが、これまで同様、提供の要請に応じられるように管理する。
			■学務課長：エクセルデータにて学務課で管理を行っている。	■新システム導入に関しては、学事システム PT と連携して進めている。	■8 月に新学事システムのプレゼンテーションを 2 社から受け、選定が進められている。	■11 月に業者を選定し、12 月より仕様について業者との打ち合わせを行い、新年度導入に向けて準備を進めている。	

## 9 法令などの遵守

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27年度の進め方※2	27年度中間点検※3	27年度末点検 ※4
(2) 個人情報保護 ■「個人情報保護に対する基本方針」は揭示し、教職員及び兼任講師に対しては意義と必要性を説明し、在学生に対してはオリエンテーションの他、ネット利用の注意点を中心としたプリントなどを配付して啓発を行っている。教職員、学生に対する研修や啓蒙活動を継続的に実施すること、また、意識が低下しないようにする体制などの検討。	新規	校長	■平成 27 年度に予定されている Web メール (Gmail) と新学事システムの運用開始に際して、個人情報保護についての意識を高めてもらうための具体的な取り組み (研修等) を検討する。	■当初の予定が遅れ、Web メール (Gmail) と新学事システムの運用が、まだ開始されていないため、現時点では具体的な取り組み (研修等) を検討していない。	■Web メール (Gmail) と新学事システムの運用が間近となったところで、具体的な取り組み (研修等) について改めて検討する。	■8/24(月)に「個人情報保護」についての教職員研修会を学内で開催し、常勤教職員が参加した。	■8/24(月)に「個人情報保護」についての教職員研修会を学内で開催し、常勤教職員が参加した。また、マイナンバー制度の施行に関連して、法人本部において個人情報保護に関する規程等の再整備が行われた。
		教務委員会	■平成 27 年度教職員及び学生への Web メール (Gmail) 及び学事システムの運用開始に伴い、より個人情報保護に対する意識を高める研修を企画検討している。	■教職員、及び卒業学年の学生への Web メールアドレス配布時に個人情報保護 (主にパスワード管理の重要性) についての啓蒙を促している。	■本年度入職の教職員、及び在学生全員への Web メールアドレス配布時に、資料や初回配信メールにおいて広く個人情報保護についての啓蒙を促していく。 ■教職員に対しては、年度内に個人情報保護の理解を深める研修会の実施を企画していく。	■本年度入職の教職員、及び在学生全員への Web メールアドレス配布時に、印刷資料や初回配信メールにおいて個人情報保護についての啓蒙を促した。 ■教職員に対しては、8/24(月)に外部講師による個人情報保護に関する研修会を実施し、アンケート集計結果をフィードバックした。	■教職員、及び在学生への Web メールアドレスの配付と配付時の啓蒙教育は定着している。 ■個人情報保護についての研修を実施し、教職員の意識づけを促した。
		学生委員会	■平成 27 年度の学生委員会で、学生に対する個人情報保護に関する啓蒙活動を継続的に実施することを課題とし、実施する。	■以前行っていた、ネット利用の注意喚起プリントの配付を予定している。継続的な啓蒙活動は行っていなかったため、今年度の委員会で検討する。	■ネット利用の注意喚起プリントの再検討をする。学生への指導内容、啓蒙活動の内容について検討する。	■ネット利用の注意喚起プリントの再検討中。作成のための参考資料の収集と情報収集が完了し、以降プリントにまとめる作業を行う。 ・12月中にプリントを作成し、1月中に学生への指導内容、啓蒙活動の内容について検討する予定。	■「ネット利用の注意喚起プリント」を改め「個人情報の取り扱いに気をつけましょう」とし、28年度の学生生活ガイドに掲載する。 ■また、4月のオリエンテーションの際、担任から説明する予定。

10 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題	区分	担当	意見・課題への取組・改善の進め方※1	現状※2	27年度の進め方※2	27年度中間点検※3	27年度末点検 ※4
(1) 社会貢献・地域貢献 ■地域、社会に開かれた教育機関を目指して生涯学習に取り組んでいるが受講生が少ない。受講生を増やし、本校の教育ノウハウを効率的に社会に還元する方策などの検討。	新規	校長	■社会人の学び直しの教育を事業化する準備段階として、本校の特徴を生かせる領域での講座を、豊島区オープンスクールや卒業生支援講座といった機会を活用して試行する。	■今年度も豊島区オープンスクールへの参加と卒業生支援講座の開催が予定されている。	■企画を考えて実施計画を策定する際に、新規のアイデアを幅広く募る。	■豊島区オープンスクールの運営に参加し、夏休み期間に3講座を実施したが、参加者は計3名にとどまった。卒業生支援講座は12月と2月に開催を予定している。	■豊島区オープンスクールの運営に参加し、夏休み期間に3講座を実施したが、参加者は計3名にとどまった。卒業生支援講座は、 ・12月13日に「トータルフットケア講座」を開催し6名が参加 ・2月21日に「2016 診療報酬点数表改定点について」を開催し46名が参加した。
		事務局長	■講座内容・実施時期を検討し、地域の方に参加してもらえる講座を模索している。	■平成 26 年度の豊島区オープンスクールは3講座を開講したが、参加者は全講座合計で2名と低調であった。	■平成 27 年度は、参加者増加を図るため、講座タイトル・内容を検討し、3講座を開講する予定。	■7月末から8月上旬の夏休み期間に次の3講座を実施した。参加者増を目指したが、結果が得られなかった。 ・7/29：毎日の生活を元気にすごそう (参加者なし) ・7/30：誰にでもわかる医療事務入門 (参加者2名) ・8/4：床ずれをつくらない介護方法 (参加者1名)	■教育資源により地域に貢献する機会として、非常に意義のある行事であるので、28年度も、講座タイトル・内容に加え、実施日程も考慮し、一人でも多くの参加者を集める。